

モモ「清水白桃」で着果数の簡易な指標を作成しました

表1 「清水白桃」における予備摘果時の側枝の基部径を基準とした収穫時の葉数及び着果程度の目安

予備摘果時の側枝の基部径 (mm)	収穫時期の推定葉数 (枚)	着果数 (果)	
		予備摘果時	修正摘果後の着果数
10	109	2	1
15	291	6	3
20	583	10~12	5~6
25	1001	20~22	10~11
30	1557	30~32	15~16

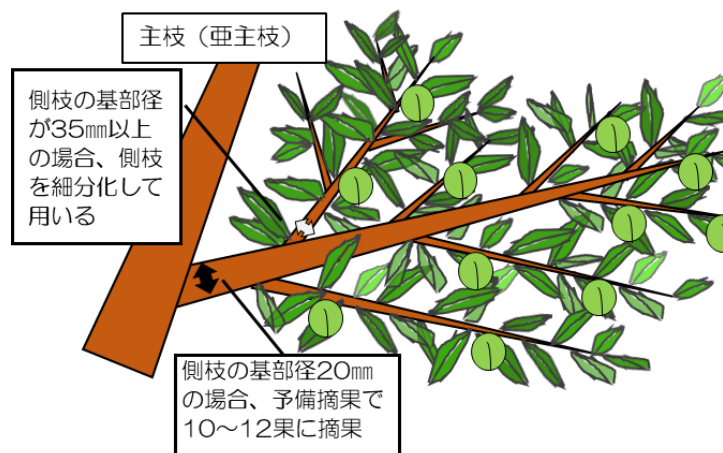


図1 摘果基準に基づく予備摘果時のイメージ

開発のねらい

モモは果実の肥大速度が非常に速く、生理障害防止のためにも、適期毎の適正な着果管理が重要となります。そこで、生産現場で判断可能な簡便な着果管理指標を新たに作成しました。

新技術の概要

- 新たな指標は側枝の基部径を指標に用います。
- 予備摘果時の側枝の基部径が10mmの場合は、収穫時の葉数が約100枚、側枝径が25mmの場合は収穫時の葉数が約1,000枚になると推定されます（表1）。
- モモは収穫時に果実1個当たりの葉数100枚が良いとされます。
- 側枝の基部径が20mm程度の場合、収穫時に最適な葉果数は5~6個のため、予備摘果時には、その側枝上には10~12果残すようにします（表1、図1）。
- 半分以上の太さの部位で強い切り返しを行っている側枝では、基部径と推定葉数のずれが大きいため、本成果の基準をそのまま用いることはできません。
- 側枝の基部径が35mm以上になる場合には、側枝をより細分化して利用します。

活用場面

枝の太さを基準にするので、煩雑な調査が必要がなく、着果数の目安として容易に活用できます。